



# 大井の 煌々キラビト

「大井町はクモの  
ワンダーランド」

池田 博明さん  
(金手)

## Profile プロフィール

池田博明 (いけだ・ひろよし)  
1951年生まれ 山形県出身  
理数教育研究所 生物領域部  
会副委員長など  
「大井町史 別編 自然」など  
近隣の市町史の編さんに協力。  
児童向けの月刊誌「たくさんの  
ふしぎ」平成27年3月号で「ク  
モと糸」刊行  
趣味は、映画鑑賞。

幼少の頃から昆虫の観察が大好きで、図鑑に載っている昆虫を発見することを楽しんでいました。大学は理学部に進学し、卒業論文のテーマに「クモ」を選択したのが「クモ」を研究する最初のきっかけだった。大学卒業後は、神奈川県立高校で生物の教師となるとともに、生物部の顧問として、生徒に研究テーマの一つとして「クモ」を提案した。このことで、クモの生理・生態や分類に関する本格的な研究が始まりました。日本や世界の「クモ」を研究し、現在までに10種の新種を発見している。そして「教える生徒がいたから続けられた」と、継続して研究できた原動力を話してくれた。町内には「192種のクモが発見されているが、あと50種はいる。種類が多く、羽がなく飛ばないので、子どもにも観察しやすい」と親しみやすさも教えてくれた。今後は「研究は続けるが、次の担い手を作るための啓発活動に力を入れたい。地域のお手伝いができれば」と話してくれた。「クモ」から見えてくる町の魅力に期待したい。

## 自然の魅力伝えたい



# 人物風土記

●児童向け月刊誌「たくさんのふしぎ」に掲載された

ひろよし  
池田 博明さん

大井町金手在住 63歳

○：高校時代に憧れた人 大井町を歩き来する生活を類学者に近づこうと、北海 送る。「だいたい一カ月の半道 理学部で生物学を学 分くらいは山形にいます。 だ。「もともと生物学的 娘が連れてくる1歳半の孫 視点から人類学を研究し と遊ぶことが最近の楽しみ たくてその先生のルーツに です」と、おじいちゃんや ならう形で大学を選びまし もあるクモ博士の目尻が緩 た。卒論のテーマにクモを む。 ○：「日本の南と北のク が変わりました」と、当時 毛が混在することで、世界 を懐かしむ。卒業後は城内 的に見ても多種多様なクモ 高校、山北高校、足柄高校 が人家の近くに生息してい 西湘高校で生物学の教鞭を という足柄エリア、「ク 執った。県青少年センター 毛だけでなく、自然の中で て児童、学生向けの実験実 様々なものに実際に触れる といふことの大切さや面白 の指導も担当した。 ○：57歳の時に父親の介 さを知ってもらいたい。ゲ 護のために教職から離れ ームやテレビの世界よりも た。現在は生物教科書の編 ったたくさんの不思議や感 集委員を務め、クモに関す 動に出会えるという伝えて る執筆活動のほか、所属す 地域の子どもたちに伝えて いる「東京蜘蛛談話会」の活 いた。自身の活動を通 動で全国を飛びまわる傍 じて生物の研究に対する理 解や応援に繋がることを望 む故郷山形県と暮らす んでいる。